

**平成29年度
総合教育会議**

平成29年11月9日

鹿屋市教育委員会学校教育課

- I 新学習指導要領について
- II 学力向上について
- III 英語教育について

1 学習指導要領について

(1) 学習指導要領とは

- 一定の水準の教育を確保するため、文部科学省が、学校教育法等に基づき定める。
- 各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準となる。

(2) これまでの学習指導要領の変遷

- 戦後すぐ……試案として作成
 - 昭和33年…大臣告示の形で制定
- 以来、ほぼ10年毎に改訂**

(3) 学習指導要領に定められている内容

- 教科等の目標や大まかな教育内容
(小学校、中学校、高等学校等ごと)
- 小・中学校の教科等の年間の標準授業時数等
(学校教育法施行規則)

2 新学習指導要領改訂の方向性

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造
的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・
ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高
い理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

3 新学習指導要領の特徴

(1) 道徳の教科化 「特別の教科 道徳」へ

量的課題



年間35時間の確実な量的確保

質的課題



子どもたちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるという質的転換

道徳的価値を自分事として理解し、
多面的・多角的に深く考え、議論
する道徳教育の充実



(2) 小学校外国語活動・外国語科

現行の学習指導要領

第5・6学年は、「**外国語活動**」 (年間35時間)



◆小学校

第3・4学年は、「**外国語活動**」 (年間35時間)

第5・6学年は、「**外国語科**」 (年間70時間)

- 小・中・高等学校一貫した学びを重視し外国語能力の向上を図る目標を設定
- 国語教育との連携を図り日本語の特徴や言語の豊かさに気づく指導を充実



(3) 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)

見通しをもって粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」

子ども、教師や地域の人との対話等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」

見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「**深い学び**」

生きて働く
知識・技能

未知の状況にも対応
できる思考力・判断
力・表現力等

学びを人生や社会に活
かそうとする学びに向か
う力・人間性

Ⅱ 学力向上について

1 実態

ア 児童・生徒の実態

イ 教職員の実態

2 本市の取組

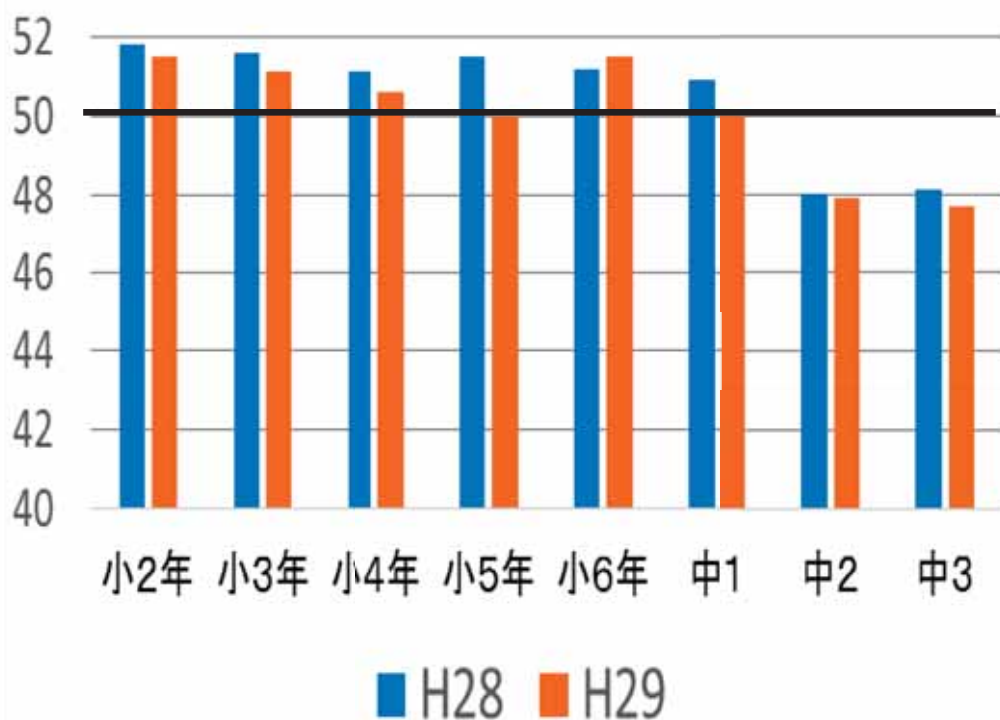
3 今後の取組

1 実態【児童・生徒】 ～検査・調査の種類～

実態を把握する方法	対象	比較対象
標準学力検査	小2～中3 (国、算・数、社、理、英)	全国標準
鹿児島学習定着度調査	小5、中1、中2 (国、算・数、社、理、英)	県平均
全国学力・学習状況調査	小6、中3 (国、算・数)	県平均 全国平均
鹿屋市共通テスト	中3 (国、算・数、社、理、英)	市平均

実態【児童・生徒】 ～標準学力検査～

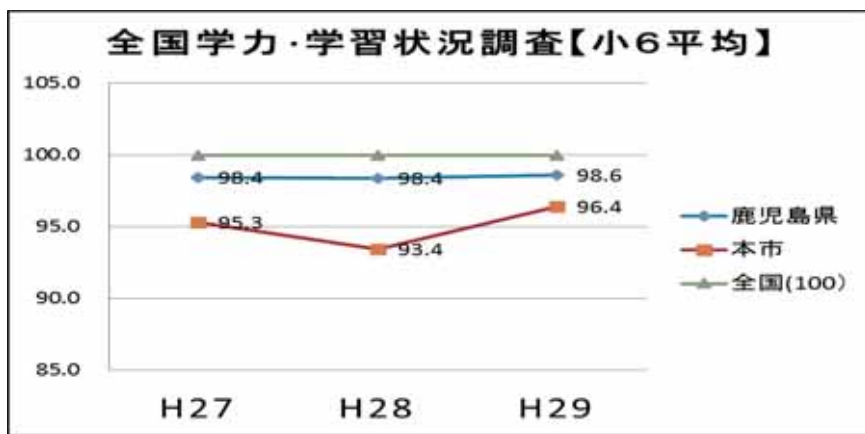
NRT各学年の平均(50が全国標準)



小2～中3
国、数、社、理、英
4月実施

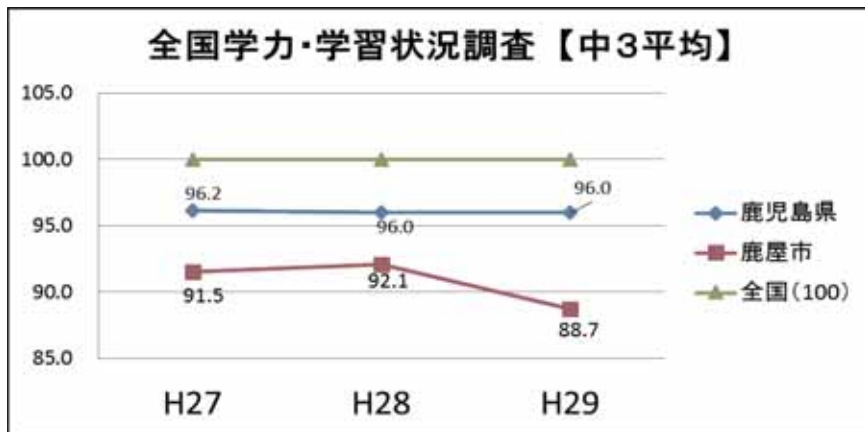
中学入学時
までは**全国
標準以上**
今後は、**小
学校内容との
関連を分析**

実態【児童・生徒】 ～全国学力・学習状況調査～



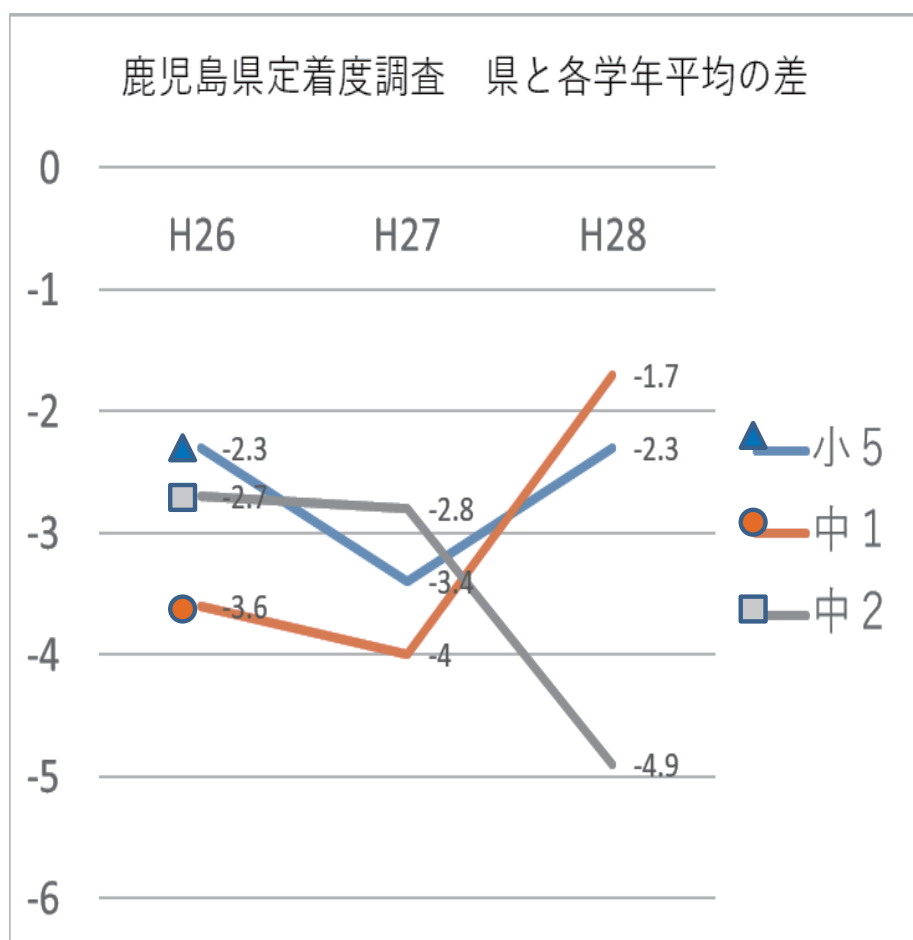
小6、中3
国、数
4月実施

小学校は改善傾向



中学校は依然として差がある。

実態【児童・生徒】 ～県定着度調査～



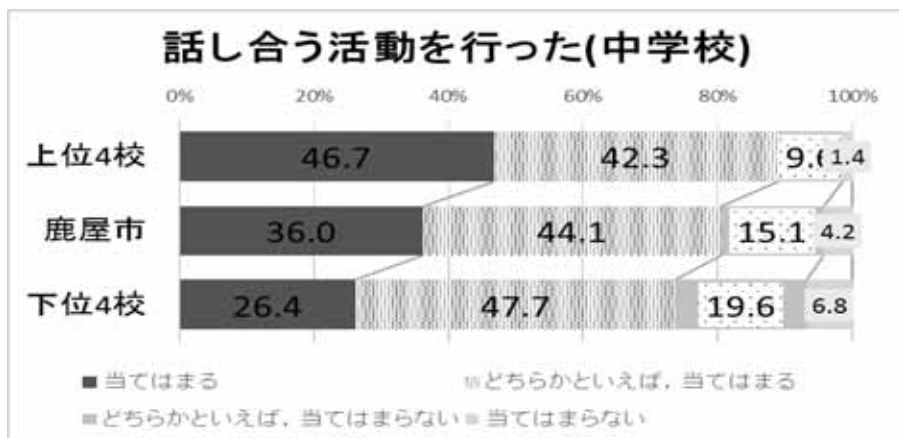
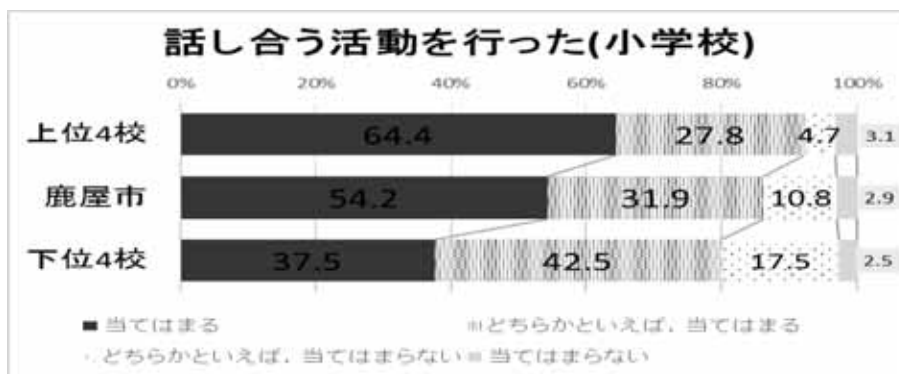
小5、中1、中2
国、数、社、理、英
1月実施

**小学校、中1
は改善傾向**

中学校は依然
として差がある。

実態【児童・生徒】 ～全国学力・学習状況調査～

【児童・生徒への質問】 前学年までの学習で話し合う活動をよく行っていましたか。



対話的な
授業と学
力は相関
がある。

原因について

(1) 授業づくり

- 教職員の学力向上に向けた研修意欲がそろっていない。
- 「主体的、対話的で深い学び」のある授業に向けた研修が必要である。
- 授業力向上のための研修機会が少ない。

(2) 家庭学習の習慣化が十分に図られていない。

(3) 保護者、地域の学力に対する意識が薄い。

対応について

(1) 授業づくり

- 教職員の学力向上に向けた研修意欲の向上
- 「主体的、対話的で深い学び」のある授業に向けた研修
- 授業力向上のための研修機会

(2) 家庭学習の習慣化

(3) 保護者、地域の学力に対する意識の高揚

2 本市の取組 ～教職員の資質向上～

主な対象	内容	時期
個々の教職員	先進校派遣研修 (中学校教員)	40人／年 4回に分けて
個々の教職員	授業力アップセミナーin鹿屋	1回／年
小集団 (教科部等)	校内研修等指導助言	各校へ随時
小集団	教科指導力向上研修会	2回／年
学校	市研究協力校	3年後公開
個々の教職員	各種研修会等への呼びかけ	各校へ随時

本市の取組 ～教職員の資質向上～

授業力アップセミナーin鹿屋



大学講師
による講演



市内教諭を講師とした演習

先進校派遣研修



深く省察する3日間

本市の取組 ～環境整備～

主な対象	内容	効果
教職員	○校務用パソコンの充実 ○電子黒板の導入	○業務改善 ○指導法改善
児童・生徒	○児童・生徒用パソコンの整備	○ICT活用能力の向上



6年理科

パワーポイントで資料を提示

3 今後の取組



小中一貫教育の推進

コミュニティ・スクールの拡大



社会に開かれた教育課程

かのや学校応援団活動の活用

